

# 各測定所における環境試料中の核種分析調査結果 (環境放射線等モニタリング調査)

# 大気浮遊じん

## 放射化学分析

単位:mBq/m<sup>3</sup>

調査地点	調査結果		比較対象①		比較対象②	
	平成30年4月 - 平成31年3月		平成27年4月 - 平成30年3月		平成20年1月 - 平成22年12月	
	<sup>90</sup> Sr	<sup>137</sup> Cs	<sup>90</sup> Sr	<sup>137</sup> Cs	<sup>90</sup> Sr	<sup>137</sup> Cs
利尻	ND	ND - 0.0045	ND	ND - 0.0014	ND	ND - 0.0026
竜飛岬	ND	ND - 0.0020	ND	ND	ND	ND
佐渡関岬	ND	ND - 0.0014	ND	ND	ND	ND
越前岬	ND	ND	ND	ND - 0.0015	ND	ND
隠岐	ND	ND - 0.0026	ND	ND - 0.0017	ND	ND
蟠竜湖	ND	ND - 0.0012	ND	ND - 0.0015	ND	ND
橋原	ND	ND - 0.0039	ND	ND - 0.0026	ND	ND - 0.0038
対馬	ND	ND - 0.0013	ND	ND	ND	ND
五島	ND	ND	ND	ND	ND	ND - 0.0013
辺戸岬	ND	ND	ND	ND	ND	ND - 0.0015

放射化学分析は、<sup>134</sup>Csと<sup>137</sup>Csを区別して、測定できないため、試料中に<sup>134</sup>Csが含まれている場合、<sup>137</sup>Cs放射能濃度に<sup>134</sup>Cs寄与分を含むことがある。

大気浮遊じんの捕集に用いたろ紙(HE-40T)には微量の<sup>90</sup>Sr及び<sup>137</sup>Csが含まれているため、試料の放射能濃度からろ紙に含まれる<sup>90</sup>Sr及び<sup>137</sup>Csをブランク値として差し引いた。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

放射化学分析とは、試料中の放射性核種を化学的な前処理により分離した後、放射能を測定する分析法であり、Ge半導体検出器を用いたγ線スペクトロメリーより高感度の分析が可能である。

# 大気浮遊じん

(単位:mBq/m<sup>3</sup>)

採取地点	試料採取日	ろ紙	積算流量 (m <sup>3</sup> )	γ線スペクトロメリー			放射化学分析	
				<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>90</sup> Sr	<sup>137</sup> Cs
利尻	H30/3/31-7/5	No.7	13900	(< 0.007)	(< 0.005)	1.9±0.06	(< 0.002)	(< 0.002)
	H30/7/5-10/6	No.7	14000	(< 0.008)	(< 0.006)	2.0±0.08	(< 0.002)	0.0045±0.00050
	H30/10/6-12/26	No.7	12100	(< 0.009)	(< 0.006)	2.3±0.14	(< 0.002)	0.0013±0.00041
	H30/12/26-H31/4/4	No.8	14900	(< 0.007)	(< 0.005)	2.8±0.07	(< 0.002)	(< 0.0009)
竜飛岬	H30/3/30-6/29	No.7	13300	(< 0.009)	(< 0.006)	2.4±0.07	(< 0.002)	(< 0.002)
	H30/6/29-9/28	No.7	13800	(< 0.009)	(< 0.006)	1.9±0.08	(< 0.002)	0.0020±0.00042
	H30/9/28-12/28	No.7	13500	(< 0.01)	(< 0.006)	3.6±0.15	(< 0.002)	(< 0.001)
	H30/12/28-H31/3/29	No.8	13600	(< 0.008)	(< 0.008)	2.9±0.07	(< 0.002)	(< 0.001)
佐渡関岬	H30/3/30-7/2	No.7	13600	(< 0.007)	(< 0.006)	3.2±0.08	(< 0.002)	(< 0.002)
	H30/7/2-9/27	No.7	12800	(< 0.009)	(< 0.006)	2.4±0.09	(< 0.002)	0.0014±0.00042
	H30/9/27-12/27	No.7	13300	(< 0.009)	(< 0.006)	3.2±0.16	(< 0.002)	(< 0.002)
	H30/12/27-H31/3/28	No.8	13800	(< 0.007)	(< 0.005)	4.1±0.09	(< 0.002)	(< 0.001)

放射化学分析は、<sup>134</sup>Csと<sup>137</sup>Csを区別して測定できないため、試料中に<sup>134</sup>Csが含まれている場合、<sup>137</sup>Cs放射能濃度に<sup>134</sup>Cs寄与分を含むことがある。

大気浮遊じんの捕集に用いたろ紙(HE-40T)には微量の<sup>90</sup>Sr及び<sup>137</sup>Csが含まれているため、試料の放射能濃度からろ紙に含まれる<sup>90</sup>Sr及び<sup>137</sup>Csをブランク値として差引いた。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについては検出下限値を示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

<sup>7</sup>Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

# 大気浮遊じん

(単位:mBq/m<sup>3</sup>)

採取地点	試料採取日	ろ紙	積算流量 (m <sup>3</sup> )	γ線スペクトロメリー			放射化学分析	
				<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>90</sup> Sr	<sup>137</sup> Cs
越前岬	H30/3/13-6/19	No.7	14900	(< 0.008)	(< 0.005)	3.4±0.08	(< 0.002)	(< 0.001)
	H30/6/19-9/25	No.7	14700	(< 0.007)	(< 0.006)	1.8±0.08	(< 0.002)	(< 0.001)
	H30/9/25-12/17	No.7	12600	(< 0.02)	(< 0.007)	3.5±0.20	(< 0.002)	(< 0.002)
	H30/12/17-H31/3/5	No.8	12000	(< 0.01)	(< 0.007)	4.4±0.11	(< 0.002)	(< 0.002)
隠岐	H30/3/26-6/28	No.7	13200	(< 0.008)	(< 0.007)	3.6±0.08	(< 0.002)	0.0016±0.00041
	H30/6/28-9/27	No.7	13900	(< 0.008)	(< 0.006)	2.1±0.09	(< 0.002)	0.0026±0.00044
	H30/9/27-12/27	No.7	13700	(< 0.009)	(< 0.007)	4.4±0.19	(< 0.002)	(< 0.002)
	H30/12/27-H31/3/22	No.8	12400	(< 0.009)	(< 0.006)	4.7±0.10	(< 0.002)	(< 0.002)
幡竜湖	H30/3/26-6/25	No.7	13600	(< 0.01)	(< 0.006)	3.7±0.08	(< 0.002)	(< 0.001)
	H30/6/25-9/25	No.7	13300	(< 0.008)	(< 0.006)	2.0±0.09	(< 0.002)	0.0012±0.00039
	H30/9/25-12/25	No.7	13600	(< 0.01)	(< 0.007)	3.6±0.17	(< 0.002)	0.0012±0.00038
	H30/12/25-H31/3/20	No.8	12700	(< 0.009)	(< 0.006)	4.4±0.09	(< 0.002)	(< 0.002)

# 大気浮遊じん

(単位:mBq/m<sup>3</sup>)

採取地点	試料採取日	ろ紙	積算流量 (m <sup>3</sup> )	γ線スペクトロメリー			放射化学分析	
				<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>90</sup> Sr	<sup>137</sup> Cs
檮原	H30/3/5-6/25	No.7	17200	(< 0.006)	(< 0.005)	3.1±0.069	(< 0.002)	(< 0.0008)
	H30/6/25-9/3	No.7	10200	(< 0.009)	(< 0.008)	1.3±0.12	(< 0.002)	0.0039±0.00060
	H30/9/3-12/10	No.7	14600	(< 0.008)	(< 0.006)	3.3±0.19	(< 0.002)	(< 0.002)
	H30/12/10-H31/3/18	No.8	14300	(< 0.009)	(< 0.006)	4.0±0.085	(< 0.002)	(< 0.001)
対馬	H30/3/6-6/7	No.7	13900	(< 0.008)	(< 0.006)	3.9±0.092	(< 0.002)	0.0013±0.00037
	H30/6/7-9/6	No.7	13400	(< 0.009)	(< 0.006)	1.7±0.010	(< 0.002)	(< 0.001)
	H30/9/6-12/7	No.7	13900	(< 0.009)	(< 0.006)	3.8±0.20	(< 0.002)	(< 0.002)
	H30/12/7-H31/3/5	No.8	13600	(< 0.008)	0.0058±0.0018	3.9±0.10	(< 0.002)	(< 0.002)
五島	H30/3/1-6/1	No.7	13600	(< 0.008)	(< 0.006)	4.2±0.11	(< 0.002)	(< 0.001)
	H30/6/1-9/3	No.7	14100	(< 0.008)	(< 0.006)	1.6±0.10	(< 0.002)	(< 0.001)
	H30/9/3-12/3	No.7	13600	(< 0.009)	(< 0.006)	4.4±0.22	(< 0.002)	(< 0.002)
	H30/12/3-H31/3/1	No.8	13700	(< 0.009)	(< 0.006)	4.0±0.11	(< 0.002)	(< 0.002)

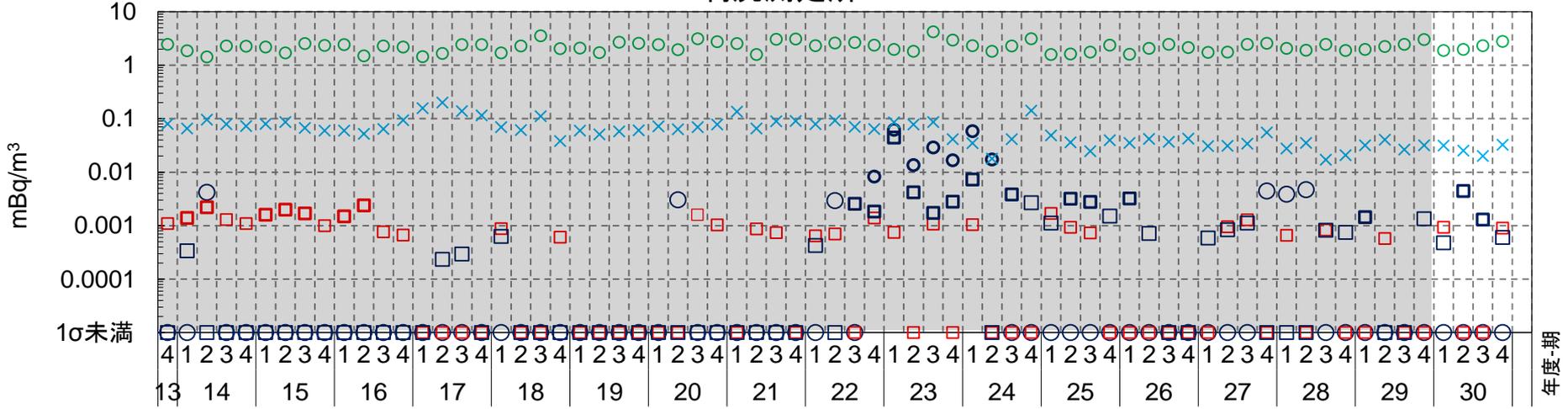
# 大気浮遊じん

(単位:mBq/m<sup>3</sup>)

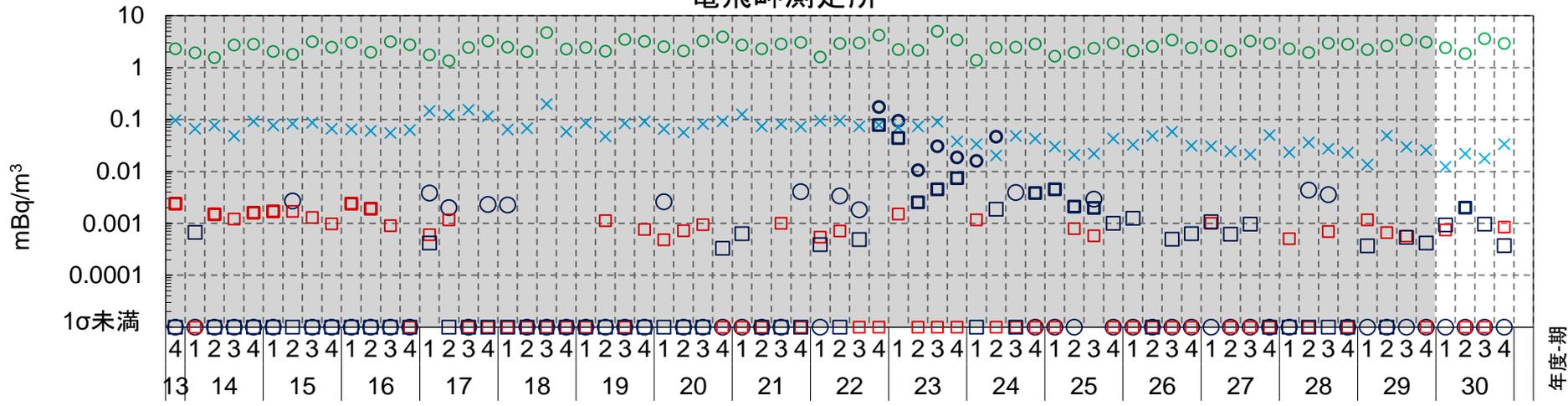
採取地点	試料採取日	ろ紙	積算流量 (m <sup>3</sup> )	γ線スペクトロメトリー			放射化学分析	
				<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>90</sup> Sr	<sup>137</sup> Cs
辺戸岬	H30/3/5-6/25	No.7	16900	(< 0.006)	(< 0.005)	2.5±0.07	(< 0.002)	(< 0.0008)
	H30/6/25-9/18	No.7	12800	(< 0.009)	(< 0.006)	1.3±0.09	(< 0.002)	(< 0.001)
	H30/9/18-12/10	No.7	12100	(< 0.01)	(< 0.006)	3.5±0.20	(< 0.002)	(< 0.002)
	H30/12/10-H31/3/4	No.8	13000	(< 0.009)	(< 0.008)	3.2±0.10	(< 0.002)	(< 0.002)
ろ紙 No.7 Lot. 70807251 (減衰補正日)			-	(< 0.2) Bq/試料 (H29/9/6)	0.15±0.024 Bq/試料 (H29/9/6)	-	0.033±0.0073 Bq/試料 (H29/8/23)	0.044±0.0057 Bq/試料 (H29/8/23)
ろ紙 No.8 Lot. 80816251 (減衰補正日)			-	(< 0.06) Bq/試料 (H30/9/19)	0.050±0.012 Bq/試料 (H30/9/19)	-	0.034±0.0066 Bq/試料 (H30/8/22)	0.021±0.0048 Bq/試料 (H30/8/22)

# 大気浮遊じん

## 利尻測定所



## 竜飛岬測定所

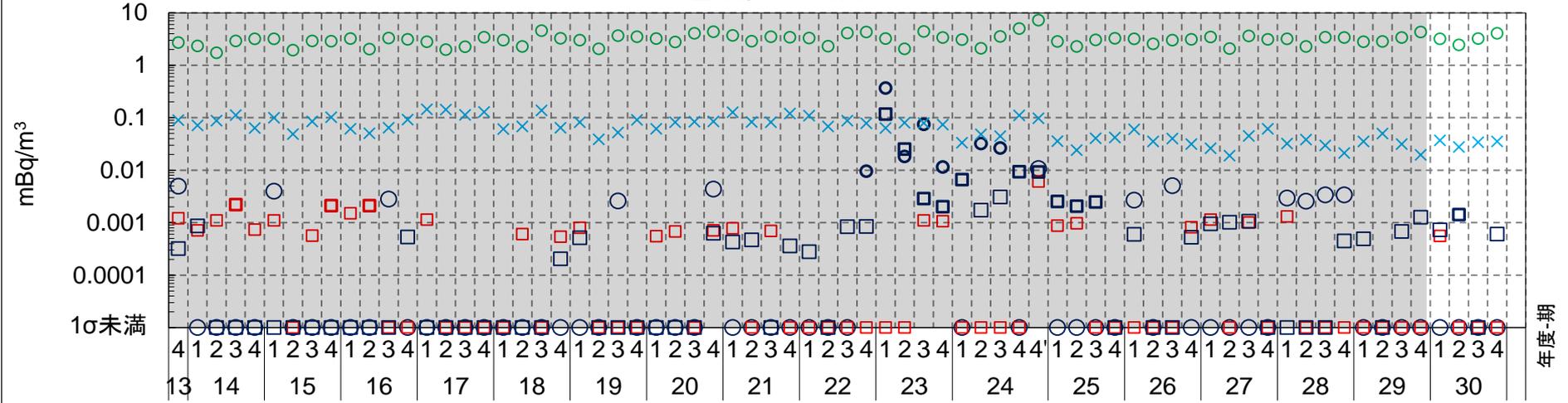


平成17年度第1四半期以降のSr-90の値は、ブランクろ紙の値を差し引いた。  
 平成23年度第1四半期以降のCs-137の値は、ブランクろ紙の値を差し引いた。

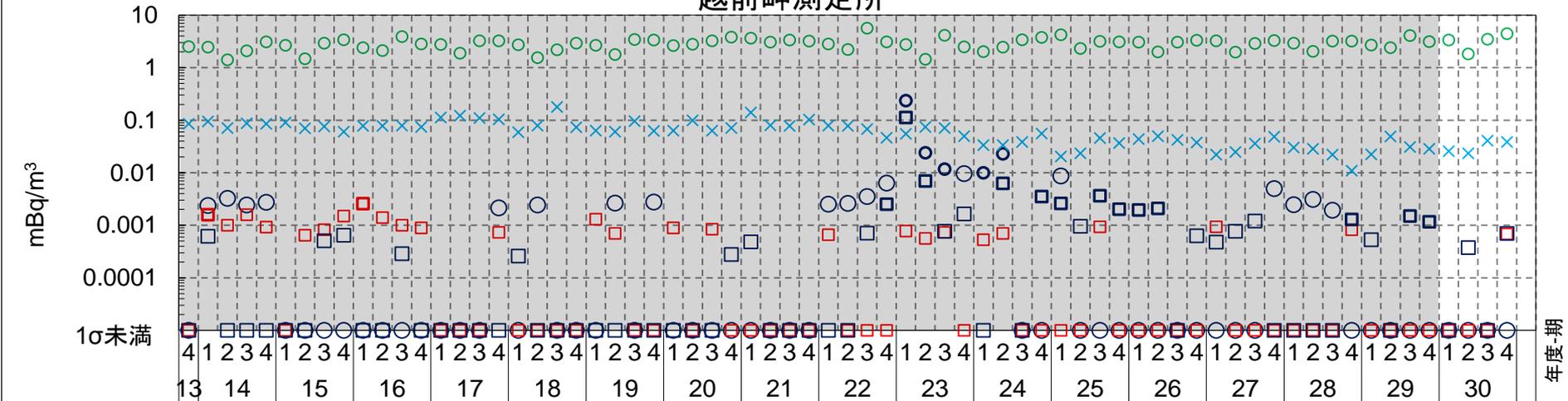


# 大気浮遊じん

## 佐渡関岬測定所



## 越前岬測定所

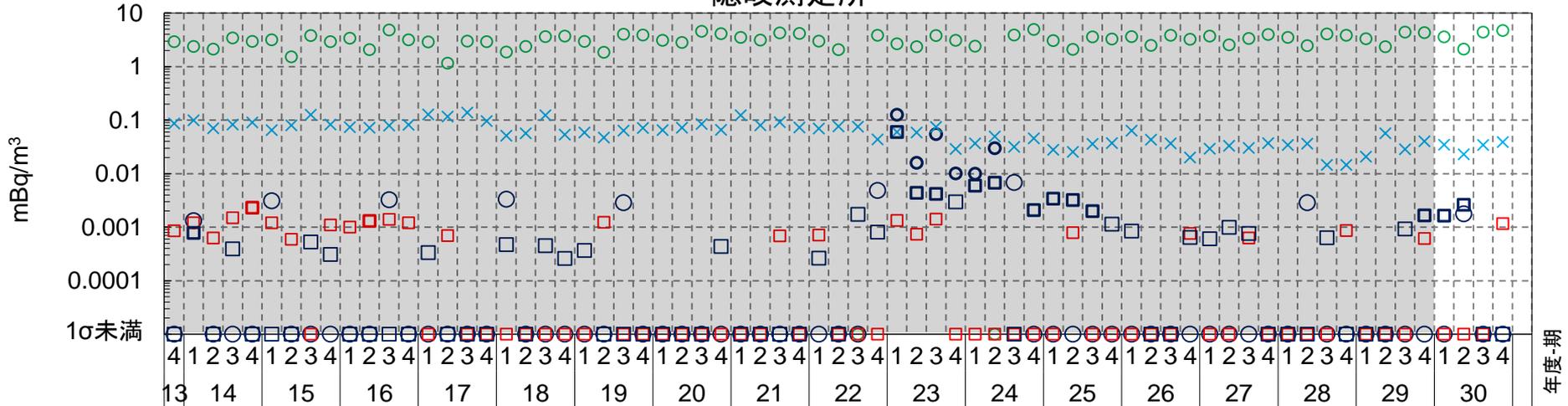


平成17年度第1四半期以降のSr-90の値は、ブランクロ紙の値を差し引いた。  
 平成23年度第1四半期以降のCs-137の値は、ブランクロ紙の値を差し引いた。

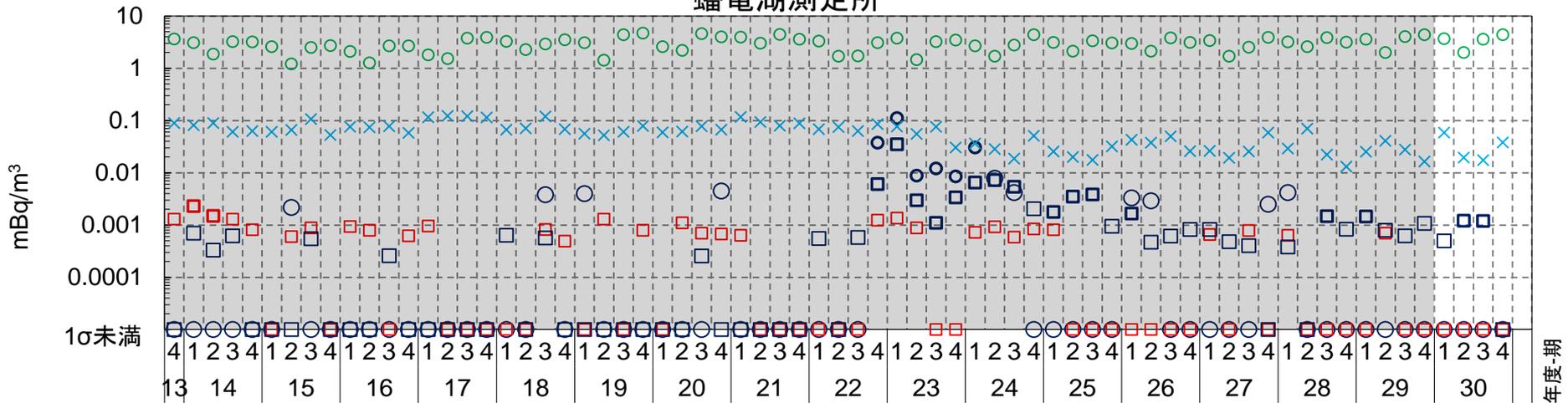


# 大気浮遊じん

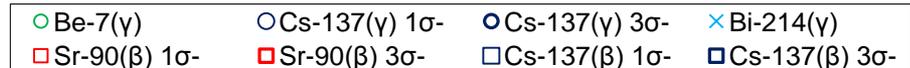
## 隠岐測定所



## 蟠竜湖測定所

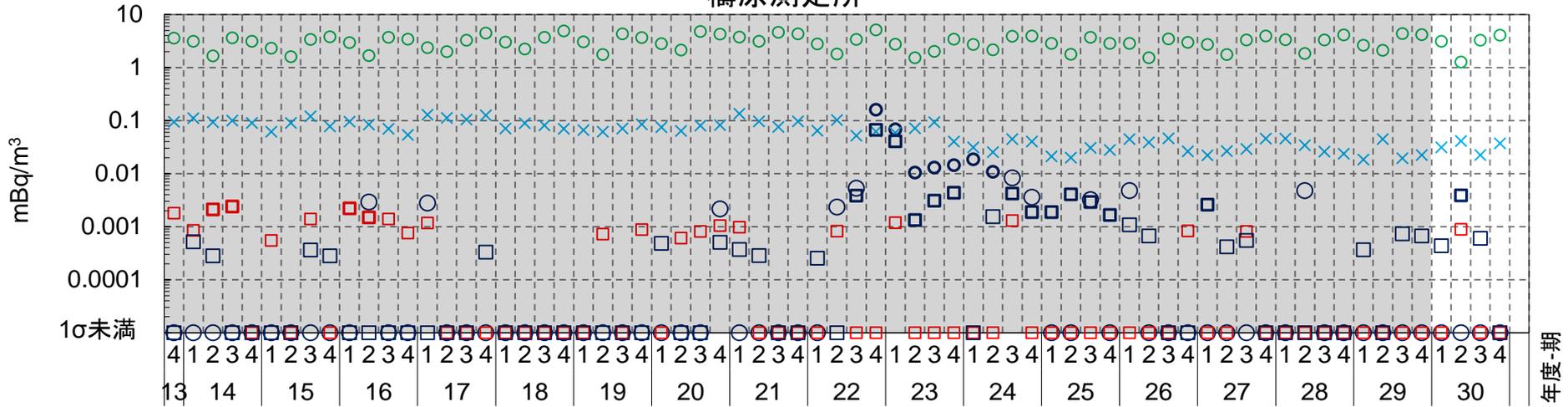


平成17年度第1四半期以降のSr-90の値は、ブランクろ紙の値を差し引いた。  
 平成23年度第1四半期以降のCs-137の値は、ブランクろ紙の値を差し引いた。

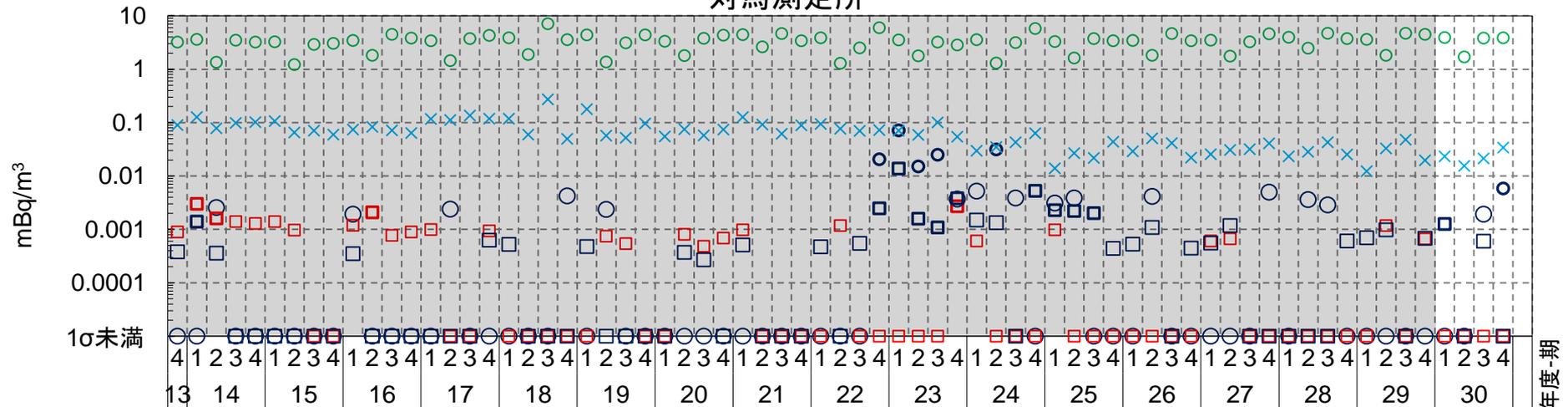


# 大気浮遊じん

## 橿原測定所



## 対馬測定所

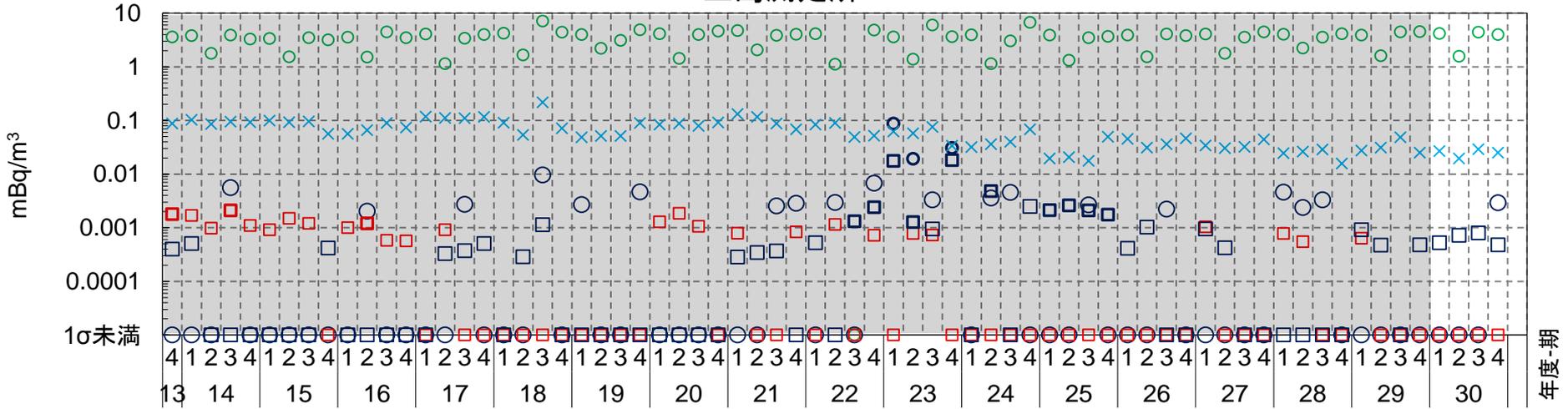


平成17年度第1四半期以降のSr-90の値は、ブランクろ紙の値を差し引いた。  
 平成23年度第1四半期以降のCs-137の値は、ブランクろ紙の値を差し引いた。

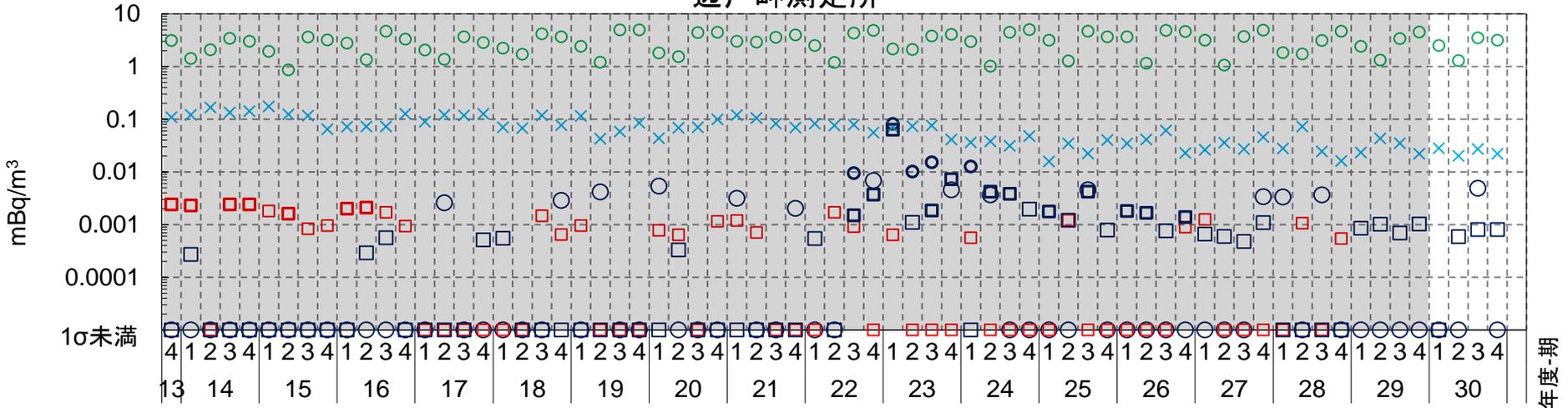
○ Be-7(γ)      ○ Cs-137(γ) 1σ-      ○ Cs-137(γ) 3σ-      × Bi-214(γ)  
 □ Sr-90(β) 1σ-      □ Sr-90(β) 3σ-      □ Cs-137(β) 1σ-      □ Cs-137(β) 3σ-

# 大気浮遊じん

## 五島測定所



## 辺戸岬測定所



平成17年度第1四半期以降のSr-90の値は、ブランクろ紙の値を差し引いた。

平成23年度第1四半期以降のCs-137の値は、ブランクろ紙の値を差し引いた。



# 大気降下物

## 放射化学分析

単位: MBq/km<sup>2</sup>

調査地点	調査結果		比較対象①		比較対象②	
	平成30年4月 - 平成31年3月		平成27年4月 - 平成30年3月		平成20年1月 - 平成22年12月	
	<sup>90</sup> Sr	<sup>137</sup> Cs	<sup>90</sup> Sr	<sup>137</sup> Cs	<sup>90</sup> Sr	<sup>137</sup> Cs
利尻	ND - 0.13	ND - 0.10	ND - 0.11	ND - 0.15	ND - 0.29	ND - 0.23
佐渡関岬	0.064 - 0.14	0.050 - 0.090	ND - 0.77	0.027 - 0.12	ND - 0.30	ND - 0.16
隠岐	ND - 0.17	0.031 - 0.13	ND - 0.33	0.029 - 0.11	0.12 - 0.76	ND - 0.15
五島	ND - 0.14	ND - 0.044	ND - 0.057	ND - 0.047	ND - 0.12	ND - 0.098

放射化学分析は、<sup>134</sup>Csと<sup>137</sup>Csを区別して、測定できないため、試料中に<sup>134</sup>Csが含まれている場合、<sup>137</sup>Cs放射能濃度に<sup>134</sup>Cs寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

放射化学分析とは、試料中の放射性核種を化学的な前処理により分離した後、放射能を測定する分析法であり、Ge半導体検出器を用いたγ線スペクトロメトリより高感度の分析が可能である。

# 大気降下物

(単位: MBq/km<sup>2</sup>・3ヶ月)

採取地点	試料採取日	γ線スペクトロメトリー			放射化学分析	
		<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>90</sup> Sr	<sup>137</sup> Cs
利尻	H30/3/31-7/5	(< 0.1)	0.098±0.018	410±5	0.069±0.014	0.10±0.011
	H30/7/5-10/6	(< 0.08)	0.11±0.018	190±2	0.13±0.018	0.050±0.0092
	H30/10/6-12/26	(< 0.07)	(< 0.05)	340±4	0.066±0.016	0.035±0.0084
	H30/12/26-H31/4/4	(< 0.08)	(< 0.05)	160±2	(< 0.05)	(< 0.04)
佐渡 関岬	H30/3/30-7/2	(< 0.09)	0.11±0.017	290±5	0.087±0.016	0.090±0.011
	H30/7/2-9/27	(< 0.09)	0.070±0.019	350±3	0.12±0.018	0.050±0.0092
	H30/9/27-12/27	(< 0.09)	(< 0.07)	500±6	0.14±0.020	0.090±0.011
	H30/12/27-H31/3/28	(< 0.08)	(< 0.06)	440±3	0.064±0.016	0.054±0.0093

放射化学分析は、<sup>134</sup>Csと<sup>137</sup>Csを区別して測定できないため、試料中に<sup>134</sup>Csが含まれている場合、<sup>137</sup>Cs放射能濃度に<sup>134</sup>Cs寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについては検出下限値を示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

<sup>7</sup>Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

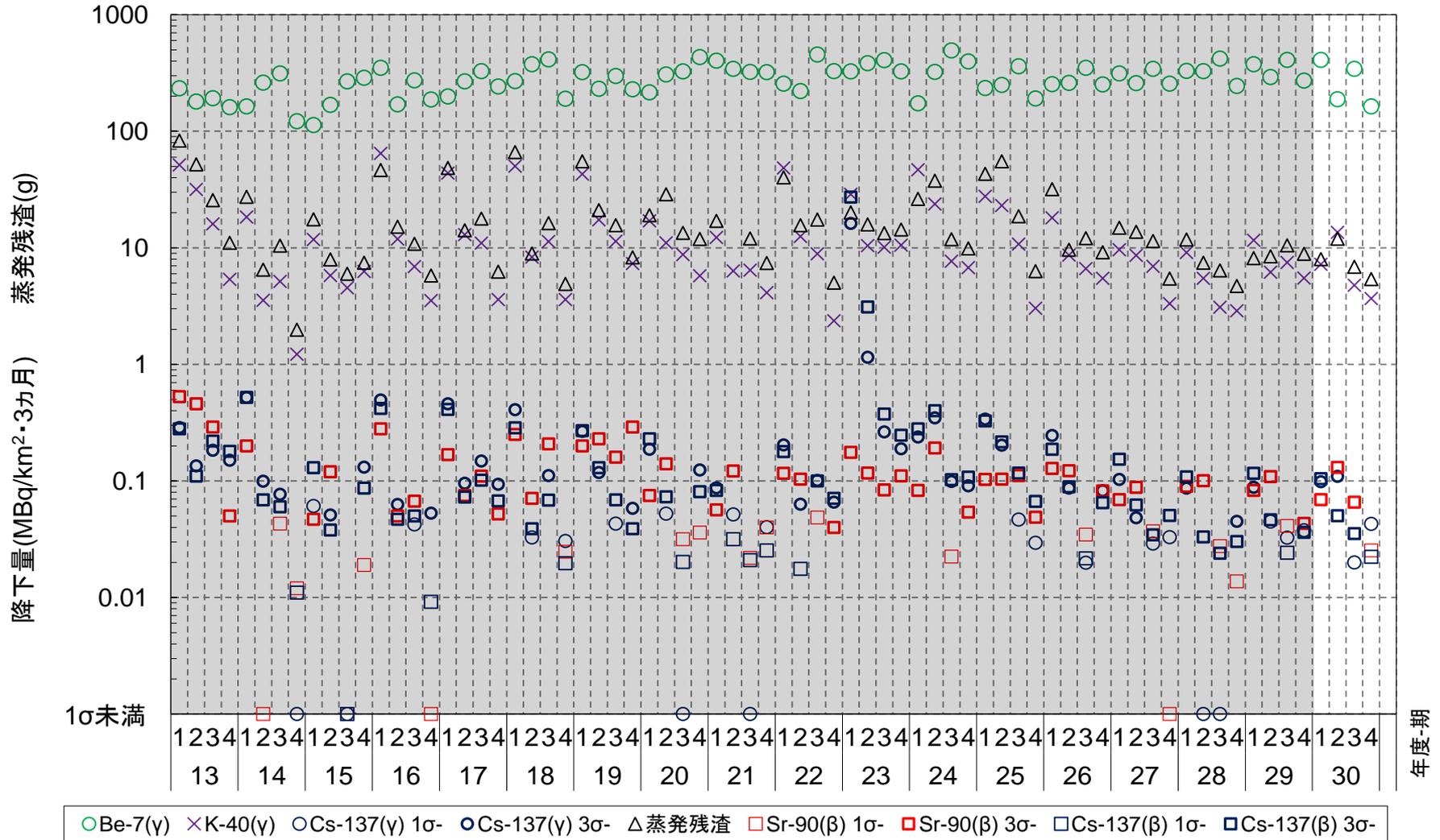
# 大気降下物

(単位: MBq/km<sup>2</sup>・3ヶ月)

採取地点	試料採取日	γ線スペクトロメリー			放射化学分析	
		<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>90</sup> Sr	<sup>137</sup> Cs
隠岐	H30/3/26-6/28	(< 0.2)	0.17±0.026	230±5	0.14±0.019	0.13±0.012
	H30/6/28-9/27	(< 0.1)	(< 0.05)	140±2	0.17±0.021	0.031±0.0081
	H30/9/27-12/27	(< 0.2)	0.091±0.026	350±5	0.17±0.021	0.082±0.011
	H30/12/27-H31/3/22	(< 0.2)	(< 0.08)	550±4	(< 0.05)	0.047±0.0089
五島	H30/3/30-7/2	(< 0.08)	0.095±0.016	400±5	0.040±0.013	0.044±0.0085
	H30/7/2-10/1	(< 0.1)	(< 0.06)	220±2	0.14±0.018	(< 0.03)
	H30/10/1-H31/1/4	(< 0.09)	(< 0.06)	370±5	0.096±0.018	(< 0.03)
	H31/1/4-3/29	(< 0.07)	(< 0.06)	420±3	(< 0.05)	0.030±0.0077

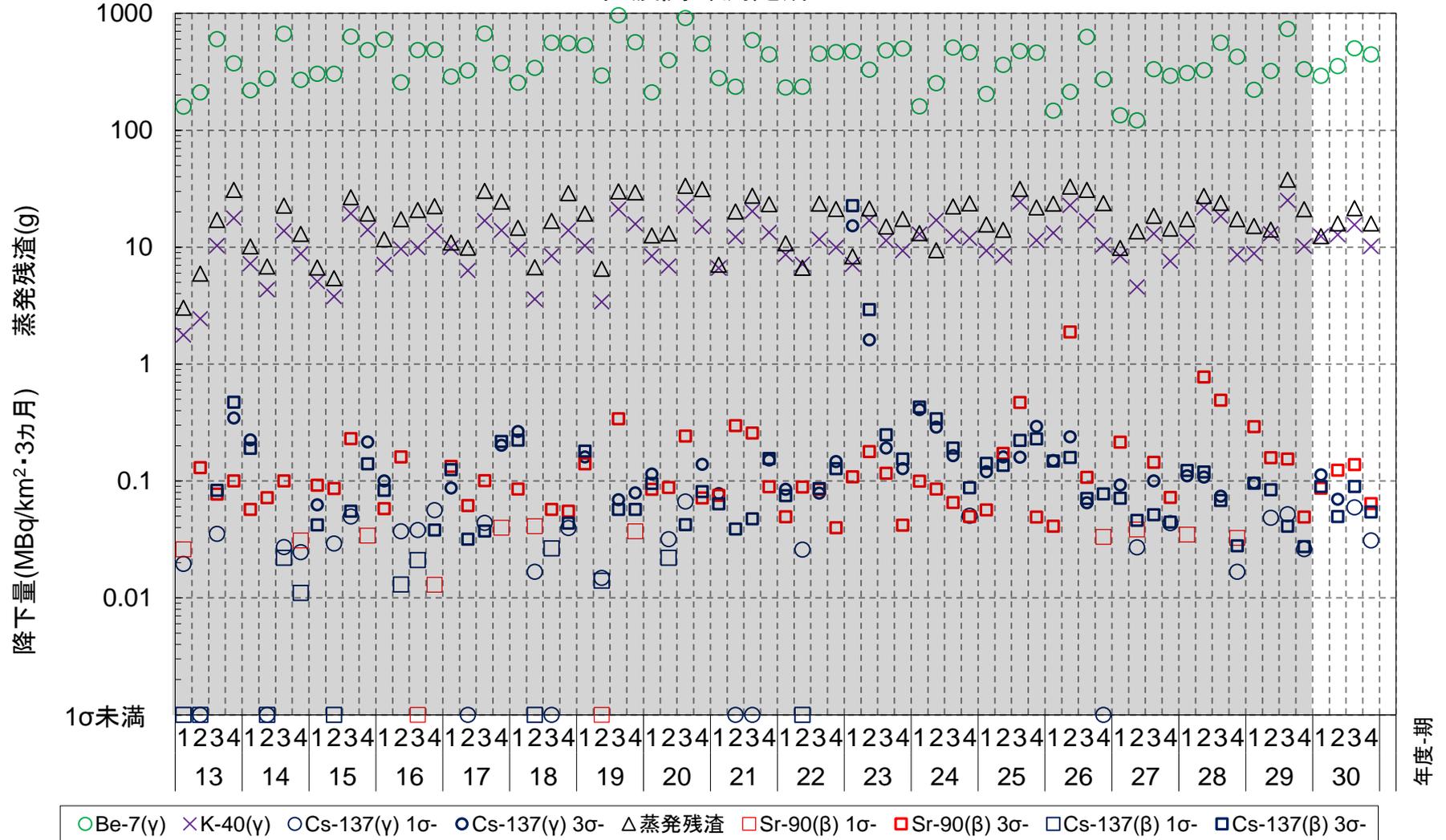
# 大気降下物

利尻測定所



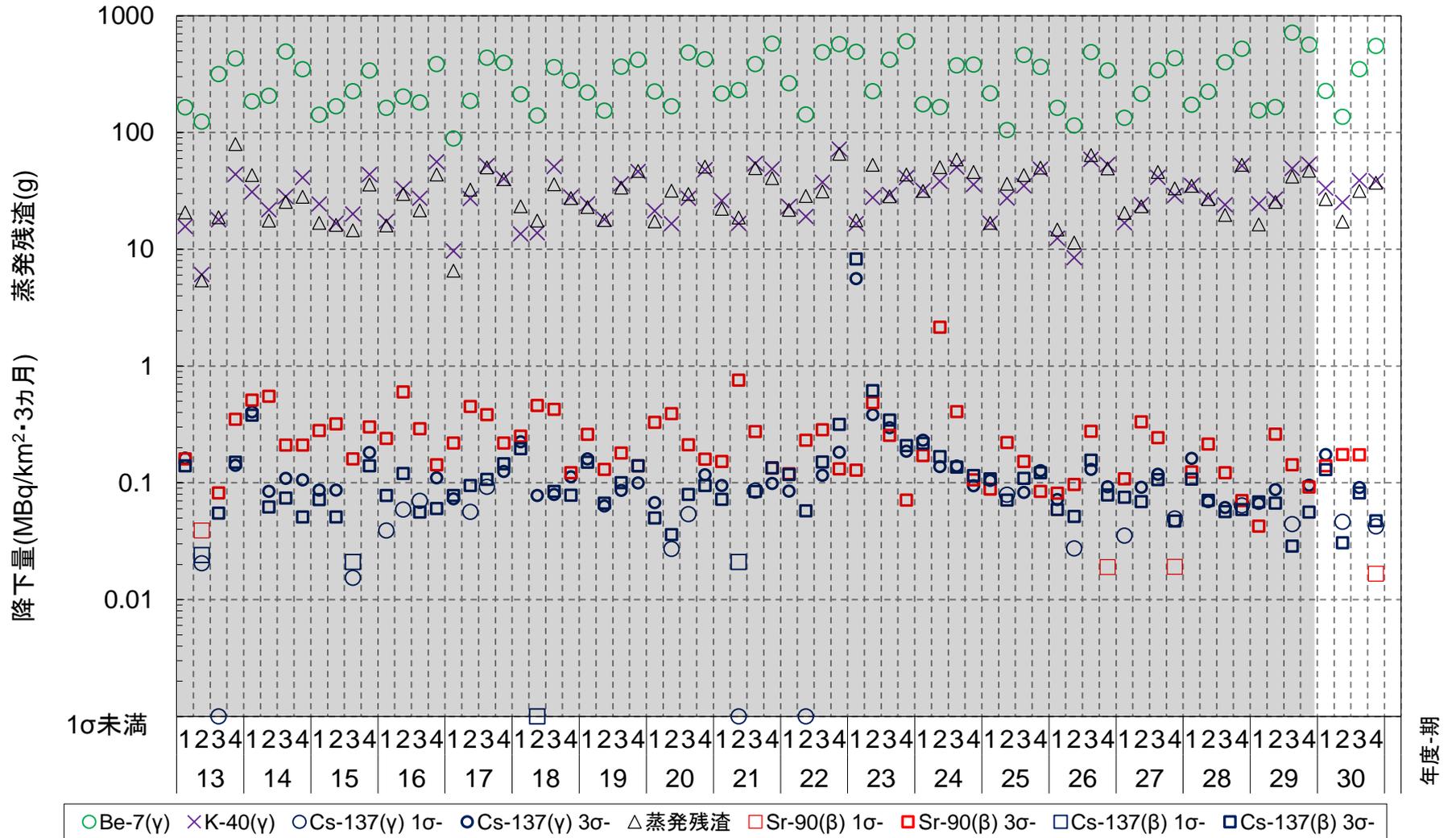
# 大気降下物

佐渡関岬測定所



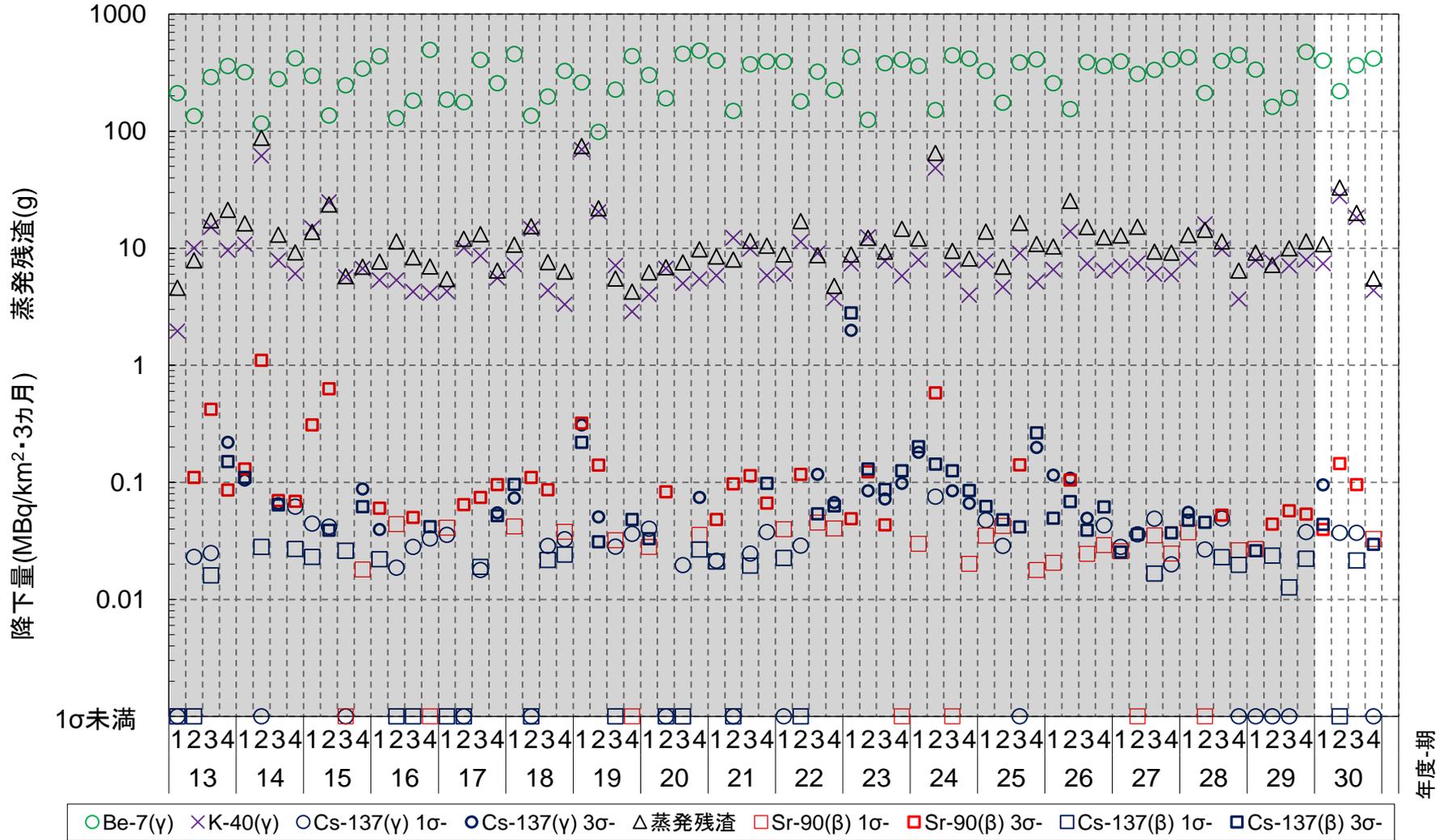
# 大気降下物

隠岐測定所



# 大気降下物

五島測定所



年度,期

# 土壌

## γ線スペクトロメトリー

単位: Bq/kg乾土

調査地点	採取深度	調査結果			比較対象①			比較対象②		
		平成30年6月 - 9月			平成27年6月 - 9月			平成21年6月 - 9月		
		<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)
佐渡関岬	上層	ND	36 ± 0.7	ND	ND	41 ± 0.7	ND	ND	51 ± 0.7	ND
	下層	ND	18 ± 0.5	ND	ND	27 ± 0.6	ND	ND	18 ± 0.5	ND
隠岐	上層	ND	15 ± 0.4	ND	ND	16 ± 0.6	ND	ND	14 ± 0.5	ND
	下層	ND	3.0 ± 0.30	ND	ND	3.9 ± 0.36	ND	ND	4.7 ± 0.36	ND
辺戸岬	上層	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0.89 ± 0.27	ND
	下層	ND	0.88 ± 0.28	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

上層は0-5cm、下層は5-20cm

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

<sup>7</sup>Beは自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

# 土壌

## 放射化学分析

単位: Bq/kg乾土

調査地点	採取深度	調査結果		比較対象①		比較対象②	
		平成30年6月 - 9月		平成27年6月 - 9月		平成21年6月 - 9月	
		<sup>90</sup> Sr	<sup>137</sup> Cs	<sup>90</sup> Sr	<sup>137</sup> Cs	<sup>90</sup> Sr	<sup>137</sup> Cs
佐渡関岬	上層	2.9 ± 0.20	30 ± 0.5	2.1 ± 0.17	34 ± 0.5	3.7 ± 0.23	46 ± 0.6
	下層	1.6 ± 0.15	14 ± 0.3	1.8 ± 0.16	19 ± 0.4	3.6 ± 0.24	16 ± 0.4
隠岐	上層	0.76 ± 0.11	14 ± 0.3	1.9 ± 0.17	14 ± 0.4	4.0 ± 0.26	13 ± 0.3
	下層	0.45 ± 0.090	2.9 ± 0.16	0.87 ± 0.12	7.1 ± 0.25	1.2 ± 0.14	4.5 ± 0.19
辺戸岬	上層	ND	0.50 ± 0.076	ND	0.33 ± 0.063	0.45 ± 0.10	0.51 ± 0.076
	下層	ND	0.93 ± 0.098	ND	0.74 ± 0.090	ND	0.87 ± 0.096

上層は0-5cm、下層は5-20cm

放射化学分析は、<sup>134</sup>Csと<sup>137</sup>Csを区別して、測定できないため、試料中に<sup>134</sup>Csが含まれている場合、<sup>137</sup>Cs放射能濃度に<sup>134</sup>Cs寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

放射化学分析とは、試料中の放射性核種を化学的な前処理により分離した後、放射能を測定する分析法であり、Ge半導体検出器を用いたγ線スペクトロメリーより高感度の分析が可能である。

# 土壌

(単位: Bq/kg乾土)

採取地点	採取深度	試料採取日	γ線スペクトロメトリー			放射化学分析	
			$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	$^7\text{Be}$ (参考)	$^{90}\text{Sr}$	$^{137}\text{Cs}$
佐渡関岬	上層	H30/7/10	(< 2)	36±0.7	(< 30)	2.9±0.20	30±0.5
	下層		(< 2)	18±0.5	(< 30)	1.6±0.15	14±0.3
隠岐	上層	H30/7/19	(< 2)	15±0.4	(< 20)	0.76±0.11	14±0.3
	下層		(< 2)	3.0±0.30	(< 20)	0.45±0.090	2.9±0.16
辺戸岬	上層	H30/6/26	(< 2)	(< 0.9)	(< 40)	(< 0.3)	0.50±0.076
	下層		(< 2)	0.88±0.28	(< 30)	(< 0.3)	0.93±0.098

上(上層)は0 - 5 cm、下(下層)は5 - 20 cm

放射化学分析は、 $^{134}\text{Cs}$ と $^{137}\text{Cs}$ を区別して測定できないため、試料中に $^{134}\text{Cs}$ が含まれている場合、 $^{137}\text{Cs}$ 放射能濃度に $^{134}\text{Cs}$ 寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについては検出下限値を示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

$^7\text{Be}$ は自然起源の放射性核種であり、大氣中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。



# 陸水

## γ線スペクトロメリー

単位: mBq/L

調査地点	調査結果			比較対象①			比較対象②		
	平成30年6月 - 9月			平成27年6月 - 9月			平成21年6月 - 9月		
	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs	<sup>7</sup> Be(参考)
佐渡関岬	ND	0.26 ± 0.070	ND	ND	ND	ND	ND	ND	5.6 ± 1.1
隠岐	ND	ND	8.2 ± 1.8	ND	ND	10 ± 1.5	ND	ND	37 ± 1.9
辺戸岬	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	4.1 ± 1.3

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

<sup>7</sup>Beは自然起源の放射性核種であり、大氣中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

# 陸水

## 放射化学分析

単位:mBq/L

調査地点	調査結果		比較対象①		比較対象②	
	平成30年6月 - 9月		平成27年6月 - 9月		平成21年6月 - 9月	
	<sup>90</sup> Sr	<sup>137</sup> Cs	<sup>90</sup> Sr	<sup>137</sup> Cs	<sup>90</sup> Sr	<sup>137</sup> Cs
佐渡関岬	0.33 ± 0.086	0.22 ± 0.044	0.22 ± 0.071	0.25 ± 0.044	0.46 ± 0.085	0.17 ± 0.052
隠岐	1.4 ± 0.14	0.15 ± 0.041	1.5 ± 0.14	0.24 ± 0.044	1.8 ± 0.14	0.21 ± 0.051
辺戸岬	1.9 ± 0.15	ND	1.8 ± 0.14	0.17 ± 0.040	1.7 ± 0.13	ND

放射化学分析は、<sup>134</sup>Csと<sup>137</sup>Csを区別して、測定できないため、試料中に<sup>134</sup>Csが含まれている場合、<sup>137</sup>Cs放射能濃度に<sup>134</sup>Cs寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについてはNDで示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

測定値は、試料採取日に減衰補正した。

放射化学分析とは、試料中の放射性核種を化学的な前処理により分離した後、放射能を測定する分析法であり、Ge半導体検出器を用いたγ線スペクトロメリーより高感度の分析が可能である。

# 陸水

(単位: mBq/L)

	試料採取日	γ線スペクトロメトリー			放射化学分析	
		$^{134}\text{Cs}$	$^{137}\text{Cs}$	$^7\text{Be}$ (参考)	$^{90}\text{Sr}$	$^{137}\text{Cs}$
佐渡関岬 関川	H30/7/10	(< 0.4)	$0.26 \pm 0.070$	(< 6)	$0.33 \pm 0.086$	$0.22 \pm 0.044$
隠岐 亀の原池	H30/7/19	(< 0.4)	(< 0.3)	$8.2 \pm 1.8$	$1.4 \pm 0.14$	$0.15 \pm 0.041$
辺戸岬 辺野基川	H30/6/26	(< 0.4)	(< 0.3)	(< 8)	$1.9 \pm 0.15$	(< 0.2)

放射化学分析は、 $^{134}\text{Cs}$ と $^{137}\text{Cs}$ を区別して測定できないため、試料中に $^{134}\text{Cs}$ が含まれている場合、 $^{137}\text{Cs}$ 放射能濃度に $^{134}\text{Cs}$ 寄与分を含むことがある。

測定値は、計数値がその計数誤差の3倍を超えるものについて有効数字2桁で表し、それ以下のものについては検出下限値を示した。また、誤差は計数誤差のみを示した。

$^7\text{Be}$ は自然起源の放射性核種であり、大気中に常に一定量存在する。測定結果を確認することによって、分析・測定全般が正しく行われているか判断する一つの目安となる。

# 陸水

